

香川かけるラジオ

～学生ラジオにおいでまい～

代表者 木村 聡喜（経済学部経済学科3年）

1. 目的と概要

本プロジェクトは、FM高松にて放送しているラジオ番組「Art Time Junction」の制作を通して「香川大学生が香川を伝える」という活動である。本団体『Radio18』は、今年度も様々な方のご支援・ご協力を賜り9年目の活動を終えた。今年度のプロジェクトテーマとは、「香川かけるラジオ～学生ラジオにおいでまい～」と題し、県内で活躍されている社会人・大学生をゲストに迎え、活動や思いを紹介するコーナーの制作など地域との接点に注目し香川の魅力を紹介してきた。前年度に比べて、コロナ禍による活動の制限は少なかったが、取材に出る機会は平時より減ったため、zoomなどを用いてリモートでの収録も積極的に行ってきた。本番組はFM高松にて2021年7月からご支援をいただき2021年3月にかけて合計9本の番組を毎月第4水曜日22時から1時間放送した。

2. 実施期間（実施日）

令和3年7月～令和3年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本プロジェクトは、FM 高松にて毎月第 4 水曜日の 22 時から 1 時間、「Art Time junction」という番組を作成している。今年度は「香川かけるラジオ～学生ラジオにおいでまい～」をテーマとし、大学生が香川の魅力を伝えることをベースに、地元で活躍されている方々、イベントに参加した小学生・高校生にインタビュー・番組出演をしていただき、地域参加型のラジオ番組の実現に注力した。

コーナー「香川かけるゲスト～ATJにおいでまい～」には、下図 1 の通り 5 団体 8 人に出演していただいた。中でも、瀬戸内ビーチハウスクラブ様には、活動の主軸としてされている

ゲスト一覧	放送月
SLYME 水川一翔 様	5 月
瀬戸内ビーチハウスクラブ 様	7 月
わかめうどん大島屋 様	9 月
直島地域活性化プロジェクト 様	10 月

海浜清掃について SDGs の観点絡め

表 1 コーナー「香川かけるゲスト」出演者

て清掃による成果や開催されているイベントについてお話しいただいた。また、元祖わかめうどん大島家様には、わかめを練り込んだうどんを打たれる理由とフードロス問題や飲食店ができる環境保全活動についてインタビューさせていただいた。取材協力依頼が団体公式の Twitter アカウントに限ったことから紹介団体は少なかったが、地域に根差した活動として、ゲストをお呼びする活動を再開できたことは今年度の成果の一つだと考える。

また、昨年度できなかった活動として、「子どもセミナー」「高校生セミナー」が挙げられる。本イベントは、若者のラジオ離れ問題の本団体ができる解決策として、ラジオ番組に触れる機会の提供や実際に出演していただくことでマイクを通して話すことへの楽しさを提供するために開催した。「子どもセミナー」は、8月6日に4名の小学生を対象に実施した。ラジオについてのプレゼン後、「夏休みの思い出」をテーマにそれぞれで話題を制作し、収録を行った。「高校生セミナー」は、11月3日に3名の高校生に参加していただいた。こちらは初の試みだったが、高校生レベルだからこそできるフリートークやディベートを収録した。どちらも好反響をいただくことができ、こちらも同世代や下の世代に向けて一緒に香川を舞台にして地域創生について考える機会を提供できた。また、今年度はスキルアップのために、元アナウンサーで地域連携部門に所属されている中井今日子氏やリンクアップとっしー氏による講演会を通して、トーク力や語彙力など番組制作に必要な能力の鍛え方について学んだ。



【図1 高校セミナーでの打ち合わせ】



【図2 子どもセミナー】

4. この事業が本学や地域社会に与えた影響

本プロジェクトの実施より、「地域に根ざす」をスローガンとして掲げている香川大学のもと、市民参加型のラジオ番組の制作をすることができた。このプロジェクトによって得られたものは大きく分けて2点ある。1点目は香川県内在住の若年者に向け、ラジオの魅力を伝え、交流を行うことができた点である。今年度は、小学生対象の『子供セミナー』、高校生を対象とした『高校生セミナー』を行った。2つのセミナーを通して、小学生にはラジオという媒体で自らの口で発信することの楽しさを、高校生にはラジオ制作の面白さを伝えることができた。また、香川大学生との交流を通じ、香川大学に対する興味や関心を高めることができたと考える。2点目は香川県で活躍されている団体や店舗への取材を行い、放送を通じてその方々の広報活動の支援を行えた点である。今年度は『香川かけるゲスト～ATJにおいでまい～』というゲストコーナーを設け、これまで以上に大学外の方々とも交流を行った。このコーナーを通して地域に根ざして活動されている方へスポットライトを当て、地域団体にも当団体にも新たなつながりを生むことができたと考えている。

以上のように、今年度は、これまで以上に地域の方々による番組出演の機会を増やすことができた。香川大学の1つの取り組みという枠組みだけではなく、番組の放送を通して大学から地域活性化について情報発信できる媒体としてこれまで以上に成長できた点、加えて地域住民と共に地方創生やSDGsに関する内容を基に社会に問題定義が

できる番組を制作できた点。上記2点に関しては、活動を通じた大学や地域社会への好影響として評価できるだろう。



【図3 元祖わかめうどん大島家様取材時】

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本プロジェクトの主たる活動としてラジオ番組制作が挙げられるが、世間の現状の中、その過程における影響及び効果について2点述べる。



【図4 普段の収録時】

1点目は、次世代の育成である。昨年度の影響により、現在2年生がいない状態であり、主軸メンバーであった3年生は年度内に引退することから、今年度の新入メンバーには、能力面・技術面共に急成長をしなければならなかった。5月以降、新入生講座を始めとし、コーナーデビューや取材、プロジェクト運営など様々な面で教育を行った結果、年度末の現在では、番組作成はもちろん次年度に向けてそれぞれがプロジェクトに必要な面を補い合い活動を継続できている。これらのことから、上級生にとっては、急成長を促すための工夫や意識の持ち方、後輩との接し方などを学ぶことができた。また、新入生にとっては、番組制作は初めての経験であり、収録や編集作業、取材など慣れな

い作業や活動に取り組む1年となった。しかし、これらの活動を通して番組制作に必要な技術の向上させることが出来た。また、「チーム」としてメンバーと協力していくために必要なコミュニケーション能力も身についたように思う。

2点目は、取材能力の向上である。コーナー「香川かけるゲスト～ATJにおいでまい～」を制作するにあたって、これまで以上にインタビュースキルが必要となった。そこで、年度開始時に中井今日子氏の講演会を開催し、事前準備の仕方や取材時の注力点に

ついてお話しいただいた。以降、取材能力及

びトーク力をメンバーそれぞれが養い実践

を繰り返していくことで向上を図った。この

技術は、番組制作だけでなく社会に出て職務

を行う際にも役に立つ経験や知識となると

考える。



【図5 中井今日子氏の講演会時】

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

活動の中での反省点は2つ挙げられる。1点目は、県内の観光地などに出向く取材が少なかったことである。大学の方から予算として県内取材費を計上していただいたが、ご時世柄、大学の外に出て活動できる期間が限られていたことやゲストをお迎えした収録に注力したため現地に行って取材をするということが少なかった。しかし、12月に

は、新屋島水族館に新入生講座の最終講座として1年生だけで計画し現地取材を試みる
ことができた。取材時には、今年度培った能力を活かしこれまで以上に有意義な取材に
成功した。来年度は瀬戸内国際芸術祭開催年であることから今年度培った取材能力を活
かし、現場での取材や瀬戸芸による地域活性化についての情報発信に努めていきたい。
2点目は、ラジオ配信アプリ「stand.FM」の普及についてである。昨年度、アプリの試
運転を行い、今年度から取り組みの一環として利用し始めた。コーナーのアーカイブや
夏休み期間の生放送を配信してきた。生放送に関しては、普段の収録では同じ形態を取
らないため、語彙力やトーク力を養うという目的もあり生配信を実施した。しかし、本
放送とは違い、トークや編集の練習場として利用となった部分が大いにある。活動の主
軸はFM高松での放送だが、これからメンバー人数が増えていくと、1回に出演できる
人数は限られているため「stand.FM」の有用性は上昇すると考える。「stand.FM」の利
用用途や目的に関しては、来年度再検討が必要である。

振り返りとして、今年度もたくさんの方々からご支援を賜り活動を終えることができ
た。昨年度同様、コロナ禍の活動であったが、昨年度からの学びを活かし時期や実施方
法を工夫していくことでより活発な活動ができた。また、来年度は瀬戸内国際芸術祭が
控えている。本プロジェクトの起源は瀬戸芸にあるため、普段の活動に加え、今年度培
った取材力・トーク力を用いて会場の現地取材やゲストをお呼びしたコーナーの制作を
勢力的に行い、香川大学が香川の魅力を伝える情報配信媒体として邁進していきたい。

7. 実施メンバー

代表者 木村 聡喜 (経済学部 3 年)

構成員 向山 快 (経済学部 4 年) 中村 香月 (経済学部 4 年)

山下 日奈子 (経済学部 4 年) 摺田 真幸 (創造工学部 4 年)

中嶋 日菜子 (農学部 3 年) 中奥 あみ (経済学 3 年)

松尾 菜々美 (農学部 1 年) 瀬川 菜子 (創造工学部 1 年)

上野 綾子 (経済学部 1 年) 徳田 凜 (創造工学部 1 年)

亀川 哲 (経済学部 1 年) 三戸 彩世 (創造工学部 1 年)

8.執行経費内訳書

配分予算額（円）		76,400		
配分予算（品目等）	数量	単価（円）	金額（円）	備考
電波使用料	9	5,500	49,500	7月～3月
県内研修に関わる交通費				
電車賃「瓦町-屋島」	5	500	2,500	往復
バス賃「屋島駅-屋島山上」	5	200	1,000	往復
県内研修に関わる入場料				
屋島水族館	5	1,500	7,500	
講演会謝礼	1	10,000	10,000	
会場使用料	1	2,430	2,430	
郵便料	1	120	120	
物品購入				
プリント紙 A4	1	858	858	
ホワイトボード	1	2,057	2,057	
合計			75,965	
残金			435	※なお残金は 大学に返還